

3.4 日本における大地震発生確率？

大地震の発生を大まかに推定するには、ある地域で同じような大きさのずれが大体同じ時間間隔で繰り返し起きていることに着目します。この間隔が大体分かれば最新の地震の大きさから次の地震の発生時期が予測できます。我が国（日本）では1000年以上前から関西地方での地震の記録がありますし、江戸幕府開設以来、関東地方での地震の記録も数多く残っています。

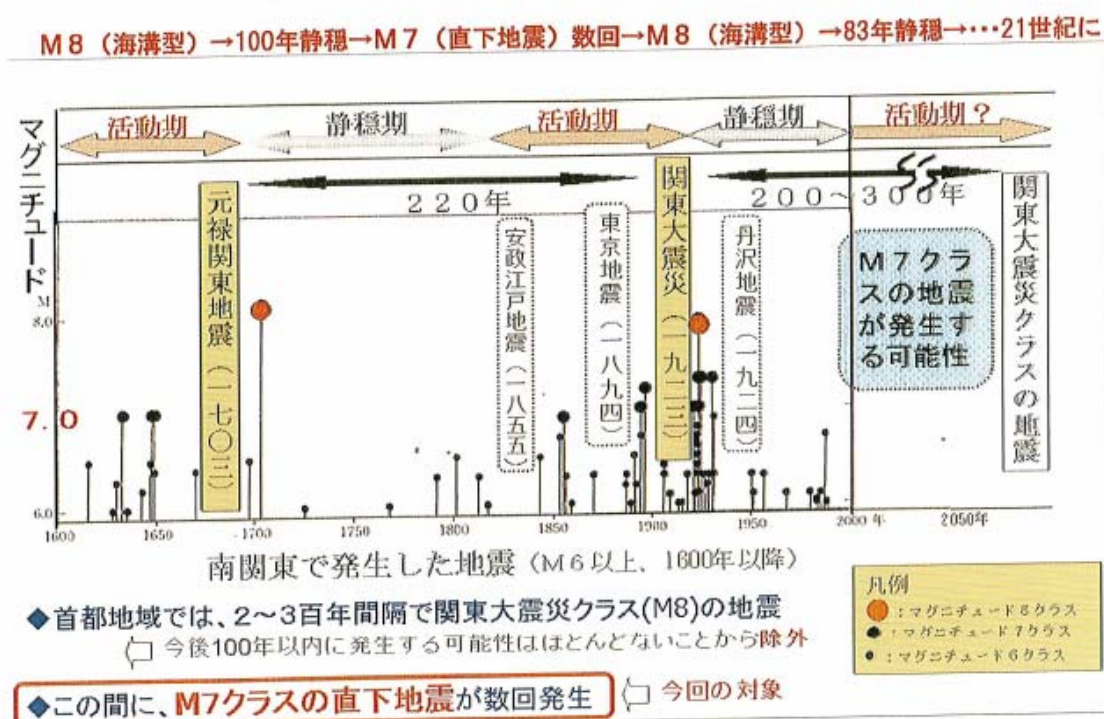


図 3.4 南関東で発生した地震

図 3.4 を参照下さい。この図は 1600 年（江戸幕府開設は 1603 年）以降、南関東で発生した地震を古文書などで調べて時系列的に並べたものです。この資料によれば、元禄関東地震（海溝型 1703 年）から関東大震災（海溝型 1923 年）まで約 200～300 年の間隔があります。ですから、次の海溝型大地震（マグニチュード 8 クラス）が発生するのはおそらく 2100 年～2200 年ではないかと想像できます。このように記録（古文書）を丹念に読み、解析することで、今後の地震発生を予測することができます。

日本国政府の地震調査推進本部は、今後 30 年以内に巨大地震の発生する確率は根室沖 40%，三陸沖北部 90%，宮城県沖 99%，首都直下型 70%，東海地震 87%，東南海地震 60%，南海地震 50%，安芸灘～豊後水道地震 40%と公表しています。

※地震調査推進本部・・・ <http://www.jishin.go.jp/main/index.html>